

慶応三年五月二十一日より慶応三年五月廿五日まで

P8310686right

を賀贈らせし旨、田畑(こう)久左方へ来る、申分不宜に付逐返せし旨

廿二日亥 雲

宅調(*1)、為替御用達奥田□義、三井同様の書付添鯉節箱持来、覚(馬)来る不面

喜太三来り弟雄作心願筋差向の事の趣申し聞るに付面す、細谷(秀)の義、栄助へ申遣す、内山へ次郎吉門入に遣す目録鯉節箱持来、藤山(陽)来り、鯉一尾賀贈す、墨邸へ随行、鯉にて□

を届て帰る、菊池より鯉券二方を賀贈らせらる、明日英公使面晤の義宿寺詰並図書殿よりも達し有し

然処、明日は李公使御逢有し、其序引合心組に付、英の方は断り申遣す、何れ是より日時を極め

申入の積り也

廿三日子 晴雲午下震

出 殿、第一時河内守殿御宅、李公使御逢有し、右へ出席、礫姑来り鮎を贈る、一杯を勧む、

明日

P8310686left

英館へ引合に可相越□し斉限(*2)等の義過斉申遣す処、サトウよりも相越呉様、文通有し

廿四日丑 雲午下雨

田中(廉)より志願書差越す、第十時英館に行く燈明台附属、御買入、御雇職人御手当等の引合也
富沢(大)実父年回に付奥より回向料遣せし旨、法□役所取揃へ贈り越す

廿五日寅 雲

森山(多)来る、不面、野中周造なる者目見に来る、出 殿、当分外国奉行恵□中座道の儀、
是

迄の通り可心得旨周防守殿、御書取丹阿弥を以て御渡、□□来る、山口(良)来り児を伴い小品持
来旨、辰弥母義、両児伴い来りし旨、ウエルニメールセエ来り名刺を投じ帰る、富沢(大)転
進賀持□を贈り遣す、山本長来りし旨

*1:宅調とは自宅で調査することのようです。

*2:斉限(せいげん) 定められた限度

□印は解読未了の文字です。私の実力ではすぐ解読できません。